



ぼうさいあいいち

会報
第26号

新年号 発行：2022 (R4) 年1月1日 NPO法人 愛知県防災士会

新年のごあいさつ

新年を迎えた皆様には、ご家族お揃いでうららかな新春をお迎えのこととお慶び申上げます。

さて、昨年を振り返ると、コロナワクチン接種が進む中、新型コロナウイルス感染拡大で感染者数は7月下旬以降急激に増加し、8月中旬には全国で約26,000人、愛知県では2,000人を超える日が続き、感染拡大の終息が見えない状況下にありましたが、9月下旬以降感染者数が急激に減少し、愛知県では一桁台になり終息に近づいたと思われます。

しかし、11月下旬には、新たなコロナ変異株「オミクロン」が発見され今後の感染拡大が懸念されます。

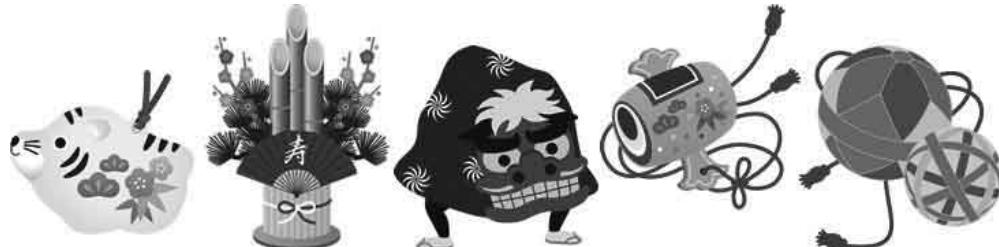
コロナ過で開催された、東京オリンピック・パラリンピックは日本選手の活躍で過去最高のメダル数を獲得し大きな成果を残し明るい話題を提供してくれました。

昨年は震度5弱以上の地震は7件、10月7日の夜、報道番組の生放送中に千葉県北西部で発生した震度5強の地震が思い出されます。番組フロア内の物が大きく揺れ、MCの方が冷静な対応で状況と注意喚起をする様子が映し出されていました。その様子を見ると今後予想される、震度8以上の南海トラフ地震を考えると備えを万全にすることの重要性を改めて痛感しました。

昨年度は「スキルアップ研修等」が開催出来ませんでしたが、コロナ禍の中で会員の皆様の感染防止を確保し、1月29日(土)に研修を予定しております。多数の方の出席をお待ちしています。

今後、変異株等により第6波の感染拡大が危惧される状況下ですが、何卒、健康に留意されお過ごし頂くようお祈り申し上げます。

今年も愛知県防災士会は少しでも多くの地域の方に災害時の防災意識を高める啓蒙活動を続け、皆様と共に進んでまいりますのでご支援・ご協力をお願いします。



会報第26号 目次

- P1…理事長あいさつ P2…顧問あいさつ P3…防災コラム P4…蒲郡研修会報告
P5…会員の活動通信 P6…在宅避難の心得 P7…スキルアップ研修会ご案内

・・歩みを止めることなく前に進もう・・

令和3年（2021年）を振り返って見ると、皆さんにとってどのような年であったでしょうか。

東京オリンピック、パラリンピックの開催に始まりコロナウイルスデルタ株の爆発的な感染拡大、政治的には大きな行事の中で何と騒がしい1年であったでしょうか。

振り返って見るとこの1年はコロナウイルス感染症との戦いに終始した1年であったと言っても過言ではないのでしょうか。

コロナ禍の脅威に怯えて果敢に攻めることの出来ない中で活動を模索しながら行動に結びつけることが出来なかつた1年でもありました。

昨今のコロナ禍も懸命な感染防止の努力により世界に先駆け沈静の兆しが見え、やっと緊急事態宣言の解除を受け閉じこもっていた人心に明るさを取り戻されて来ました。

多くの方々が街に出て活気が漲り日々の活動に明るい兆しを感じる中で昨今、新たなコロナ感染症が南アフリカで発症、デルタ株にも勝る新変異株、オミクロンが発症しました。この情報は瞬く間に世界を駆け巡り、その感染は地球規模に拡大しつつあります。

改めて新たな変異株の脅威に対し心を引締め立ち向かっていかなければなりません。コロナ禍は災害であり人災であります、新たなる業態の中の災害に対し、改めて何をやるべきか確りと見極め備えて行かなければなりません。

年始に向け人出の多い時期を迎えます、その中で出来ることは何なのか、気を引き締めこれ以上の新たな感染、拡大を防ぐため率先して感染防止のイロハである「ソーシャルディスタンス・三　蜜」を声高に実践し、呼びかけて行かなければなりません。

平成18年に支部、発足以来の規約を全面的に見直し、改正を行い新たな組織として出直しました。

令和4年度は新たに改正された規約による門出の年にあたり役員改選の年になります。

多くの会員の方々の積極的な参加により新たな人材の発掘により拓かれた組織として新たな活動の出発点になりますことを心より期待いたしております。

プロフィール：平成14年度愛知県主催「あいち防災カレッジ」修了（あいち防災リーダー）平成15年あいち防災リーダー会（APLA）設立に参加、副会長、会長代行、知多ブロック代表、旧西春町社外重役（防災担当：非常勤）就任、平成16年防災士認証、平成17年日本防災士会幹事、平成18年日本防災士会愛知県支部の設立に参加、代表が発足2ヶ月後に急逝、代表に就任、日本防災士会常任幹事、平成19年監査委員、平成20年常任理事に就任、平成29年常任理事退任、参与を委嘱、平成30年愛知県支部の法人化の認可を機に県代表を退任、理事・常任顧問に就任、平成23年日本防災士会東海支部連絡協議会設立、代表世話人に就任、令和3年退任、相談役に就任、現在にいたる。以下誌面での活動：平成20年㈱防災情報新聞社より「危機管理について」12月から平成21年7月まで 平成20年名古屋市中村区羽衣町ひだまり情報誌に「防災一口情報」を12月より平成22年12月まで平成21年東海市荒尾住宅町内会会報に「防災一口情報」を平成24年3月までそれぞれ寄稿 平成24年内閣府より「防災コラム」の寄稿を受ける。全国版の新聞に掲載、平成25年より東海市渡内コミュニティー防災委員会の依頼を受け「防災一口情報」を隔月で寄稿中 令和3年12月現在43号



特定非営利活動法人
日本防災士会 参与
特定非営利活動法人
愛知県防災士会 理事
常任顧問 保坂 松男

…日々の情報に耳を傾ける。…

副題：“イザ”と言う時に備えるために!!

12月に入り山梨県東部・富士五湖を震源とするM4.8、震度5弱の地震が発生、また関東の広い範囲で震度3の地震が発生しました。震源は伊豆半島の陸側のプレートの衝突により生じたものとの言われ、その数時間後に直線的に300キロ余離れた紀伊水道を震源とするM5.4、震度5弱の地震が発生しました。特に紀伊水道を震源とする地震で震度5弱以上の揺れは過去において記録したことがなく、この海底では日常的にスロースリップが発生しており地域的にも今後の地震発生に対する備えは引き続き欠かせません。

今回の地震が直接的に影響を及ぼさないと言われますが、この区域における地震の発生は東海全域に対し油断の出来ないものであり、ひいては南海トラフ巨大地震を誘発する恐れがあります。

今年4月ごろより現在に至るなかでトカラ列島近海において有感地震が多発しており、また太平洋側において地震が多く発し、東日本大震災の余震によるものと言われ発生から10年を経過した中でその影響は計り知れないものがあり、その地震の発生区域が東北地域から関東にかけて多発しておりますことはご存じのことと思います。

12月に入っての地震について、この前兆は東海地域に大きな影響を及ぼすものであり最大限の関心をもって今後の動向を重視して行かなければなりません。

以前より富士山噴火による地震の予測が叫ばれている中で関係者は南海トラフ巨大地震を誘発する心配はないと言われておりますが今回の紀伊水道を震源とする地震による誘発は地形的にも避けて通れないものであり不安を覚えざるを得ません。

トカラ列島近海では震度1.0以上の地震が170回/日発生していると言われており列島の地下で何が起きているのか、改めて備えを見直すことが求められます。

令和3年（2021年）における東海地域の災害について、大きく記憶に残るものは7月に発生した熱海市の土砂の崩落による災害であり人災によるものと言われております。

当地域でも各所において農作耕地がいつの間にか地ならし整地され自然が壊され産業地域に大きく変わって行く様を多く見かけます。開発されていくことは社会的に避けて通れませんが自然が壊され保水効果が減少して行くことは避けられない現実であり地球温暖化現象に併せ急激な気候変動による大雨災害の発生を危惧するところであります。

最近では、防災は疾病（健康）、交通事故、火災に続く生命と財産を脅かす4番目の危機と感じるようになりました。疾病（健康）、交通事故、火災では、夫々において社会的な備えの在り方を長い時間をかけ取り組んで来ておりますが、防災は阪神淡路大震災から数え25年余りと自然災害、感染症災害、原子力災害等、災害別や地域別の備え方を知り意識が変わるまでは、まだまだ様々な検討が必要なのかもしれませんと思うところがあります。

自然災害は歴史の中で多くの教訓を残し、その教訓がしつかり受け継がれないまま現代の生活が営まれ過去の同様な被害を受けることは、意識や生活の仕組みを変えることが出来ないことを示しております。

その中で「防災の継続は力なり」歩みを止めず志を同じくする仲間を増やしていきたいと思います。

（文責：保坂）





出前講座報告

蒲郡防災リーダー研修

2021 (R3) 年度地区防災リーダー研修会2回コース

参加者：1回目 39名、2回目 38名 (応募者数／47名)

開催日時：2021年11月12日（金）・26日（金）共に18時50分～20時40分 会場：蒲郡市民会館 大ホール
主 催：防災塾～知つて蒲郡～ 後援：蒲郡市危機管理課

参加者：総代/自主防災会/福祉関係/中電職員/公民館/若者会議/社協職員/市職員/防災塾会員など

出前講座の依頼を受け、11月12日・26日の2日間のコースを当会所属の防災アドバイザー広瀬一行氏が講師となり実施されました。

研修会内容は、「地区防災計画」作成するために、「もしもの時に、自らの地区に住む人・命の守り方・支え合い方」を知り、考え、そして「防災」を地区の住民が個々の事と捉える機会にするために防災リーダーはどうすべきかを考える研修会となりました。

研修会風景



2回目の研修会閉会前に質問応答も行われ、受講者の方々の熱意が伝わる質問に防災アドバイザーの広瀬氏も応えておられました。

この研修会が「地区防災計画」作成に繋がればと期待しております。

今回の研修会参加者アンケート結果（抜粋）を以下に掲載致しますので、ご自分が講師になる勉強会での参考資料となれば幸いです。

アンケート結果

① 心配な自然災害は？（複数回答可）

地震	96.4%
台風	53.6%
津波	39.3%
高潮	32.1%
豪雨	25.0%
液状化	14.3%
土砂崩れ	10.7%
河川氾濫	7.1%

② 地区防災計画について

言葉は聞いたことがある	37.7%
聞いたことがない	9.3%
市が作成してくれると思う	12.5%
取り組まないといけないと思った	31.2%
取りかかっている	3.1%
既に作成済み	6.2%

回答者未作成地区在住者

③ 今回の研修会で学び、今後実行できること・できるところ

- * 感震ブレーカー設置
- * 家具転倒防止の実施
- * 非常持ち出し袋チェック
- * 「地域ハザードマップ」を提案したい
- * 安否確認訓練の実施
- * 安否確認登録票作成
- * 避難行動個別計画作成
- * 自主防災組織団の作成
- * 予め戸別住民票作成（常会/組別）
- * 地域防災マップの作成
- * 一時避難所の設定
- * 避難所開設準備
- * 避難所運営の為の緊急連絡先整備
- * 避難行動要支援者の実態把握
- * 宿泊避難の体験会実施
- * 三助（自、共、公）の具体的役割りと実行力を整理し、検討、対処
- * やらなければいけない事が多く迷う
- * 先ず身近な家族/隣組から行動を起こしたい

本研修会に
参加され、皆さんから
前向きなご意見が
多く出されました。

(取材：防災塾～知つて蒲郡～、編集：小塚達也)

『私のコロナ時代の防災士活動』

発信者：防災アドバイザー 広瀬一行

防災訓練等、三密の壁で実践が出来ません。

そこで、私が地元で実施している活動は、地元の民生委員・児童委員が、毎月最終土曜日と、月1～3回の臨時の民生委員・児童委員便りに掲載を依頼して防災に関する情報等を発信しています。

一回目(8月7日付)が『防災笛の紹介』で必要性を紹介。高齢者世帯・独居老人世帯・身障者世帯に手作りの防災笛を進呈(作り方説明書付き)しました。

二回目が『防災の日について』で9月1日の意義等についてと、平常時からの対策を紹介しました。

三回目は、10月30日付で”家具転倒防止器具等購入費補助制度”について、地元稻沢市の補助制度の詳細チラシ添付でご案内予定です。

今後も、当分の間実践的な防災訓練が可能になる迄、民生委員・児童委員便りを活用して啓発運動の継続を推進して参ります。今回は一回目と二回目を掲載いたしました。

民生委員・児童委員便り

★ 『防災笛の紹介』 助けて!!防災笛を吹く

巨大地震をはじめ、大災害時に最も大切なのは、自分の命・家族全員の命を守ることです。その為には、平常時から出来る限りの準備をすることです。

それを『自助と言います』

その第一は、とにかく逃げることです。

でも万が一、地震の大きな揺れで家具類が倒れて、屋外への脱出口が塞がれたり、家具類の下敷きになつたら助けを求めることがあります。大きな声で「助けてー！」と叫んでも届かない場合があります。

その時、あなたはどうしますか？

防災笛が首に掛かっていれば、屋外にいる人々に存在を知らせることができます。助けを呼ぶ防災笛は、家族全員で持ちましょう。

そこで、牛乳パックでも簡単に作れて、お役に立つ防災笛を世帯ごとにひとつ民生委員・児童委員からプレゼントします。作り方の説明書も添付します。

ご家族全員で防災笛を持ちましょう。



★ 『防災の日について』

「防災の日」は、1960年（昭和35年）に、内閣の閣議了解により制定されました。

9月1日という日付は、1923年（大正12年）9月1日に発生した関東大震災にちなんだものである。また、例年8月31日-9月1日付近は、台風の襲来が多いとされる二百十日あたり、「災害への備えを怠らないように」との戒めも込められています。

皆さんは防災のために何か備えていますか？

熊本地震では震災直後に18万人が避難し、3ヵ月が経過した7月でも約5000人の方が避難所生活を余儀なくされていました。1995年の阪神・淡路大震災や2011年の東日本大震災、そして今後30年以内に70%程度の確立（地震調査研究推進本部発表）でマグニチュード8～9クラスの地震が発生すると予想されている南海トラフを震源とした地震……。

そこで家族を守るために非常用持ち出し袋を準備したり、食料の備蓄をしている家庭が増えています。また、ニュースで熊本地震の光景を目の当たりにして、準備をはじめたという方もいらっしゃるのではないかでしょうか？

地震はいつ、どこで起きるかわからない。備えあれば憂いなし…。平生からいざというときの準備を怠らなければ、万一の事態が起こっても、少しも心配することはない、ということですね。



「会員の活動通信」では、会員の皆さんのが日頃より実践している防災活動のノウハウなど防災に関する情報を募集しています。下記アドレスまでお寄せ下さい。お名前、ご連絡先、防災士登録ナンバーをご記入の上、ご投稿下さい。

gogobousai@gmail.com

投稿
募集

『在宅避難の心得』



解凍してすぐに食べられる 冷凍食品があると便利

冷凍食品の中でもお弁当用の総菜やチャーハンなどは、解凍してそのまま食べられるものが多い。自然解凍OKの表示がないものでも、自然解凍しておいしく食べられるものがあるので、停電時に備えてそのまま食べることができる冷凍食品は多めにストックしておくのがおすすめです。

事前の備え



つっぱり棒で転倒防止を

重量のある冷蔵庫は、大地震の際に凶器になってしまふことも。しっかりと固定しておきましょう。伸縮タイプの転倒防止ポールや転倒防止ベルトなどは手軽に取り付け可能。地震の規模によっては100%安全とはいえないが、完全にはずれてしまうまで、逃げる時間を稼ぐことができます。

冷凍室はできるだけ 詰め込んでおく

災害時に停電した場合でも、冷凍室の中にたくさん食品が入っていれば、凍った食品どうしが保冷剤の役割をしてお互いを冷やしてくれるので、解凍されるまでの時間稼ぎをしてくれます。ふだんから冷凍室にはぎっしりと食品を詰めておきましょう。

冷蔵室の上段にはなるべく 重いものを置かない

大地震が起きた際、冷蔵庫の扉が開いて中の食品が飛び出してしまうことも。上段に入れているものほど頭上に落ちてきて危険なので、ふだんから重いものは冷蔵室の中段より下に入るように心がけましょう。



(災害時に困らないための 冷蔵庫とのつきあい方)

大きな食料備蓄庫である冷蔵庫。食料の備えはもちろん、大地震などを想定した対策をしっかりすることも忘れずに。



調味料などの小びん類は かごにひとまとめに

ジャムや調味料の小びんは、地震が起きた際、扉が開いて飛び出してしまう危険性大。落ちて割れたら、床に散らばったガラスの破片を片づけるのも大変です。ふだんから100均などで売っているプラスチックケースにまとめて入れておけば、ケースごと飛び出すのでびんが割れる危険を軽減できます。

停電になったら

冷蔵室→冷凍室の順で 食べるのが正解

万が一停電してしまっても、冷凍室の中はしばらく冷えているので、まずは冷蔵室のものから食べていきましょう。それから、冷凍室の食品や備蓄していたローリングストック食材を上手に消費して。

扉の開閉はなるべく減らす

冷蔵庫の扉を開けるたびに冷気が逃げて庫内の温度が上がり、食材がわるくなってしまうので、扉の開け閉めは極力減らすように心がけて。開ける際には、欲しいものがすぐ取り出せるように、ふだんからの整理整頓が大切。





編集・発行：NPO法人愛知県防災士会 広報委員会
〒453-0013 名古屋市中村区亀島1丁目11-14 東特会館内

スキルアップ研修会ご案内

これから地域で防災教室を開催しようと思っている防災士の皆さんに質問です!!

参加者のニーズに
合った内容ですか?

難しい専門用語
使ってませんか?

“有る”を前提の
講習してませんか?

また参加したいと
思わせていますか?

一般の参加者の皆さんのが楽しく防災を知って頂く為の
防災教室の進行方法等を知っていただきます。

スキルアップ研修会 楽しく地域防災活動を!!

防災教室を楽しく、みんなに防災ノウハウを!!

楽しい防災教室 を開催しよう!!

開催日／2022年1月29日（土）

開催時間／10:00～12:00 受付9:45～

開催場所／東特会館 4階 会議室
名古屋市中区亀島1-11-14

講師／愛知県防災士会 防災アドバイザー 小塚 達也

持ち物など／特にありません

※定員になり次第締めきります。

お申込みは下記まで 受付担当／小塚研修副委員長

- メール gogobousai@gmail.com (受付時間 24hOK)
- TEL 090-3935-6941 (受付時間 9:00～18:00)

- 感染症予防のため、咳、発熱等の症状ある方は参加をご遠慮頂きます。
- 感染防止の為、マスクの着用をお願いします。
- 入口に消毒用アルコールを設置しておりますのでご利用下さい。
- 会場にて万が一体調が悪くなった場合、速やかにお申し出下さい。

先着
20名

申込み
QRコード



防災士は
地域の人たちに
災害から生き残る為
の術を伝える
防災伝道師!

会員のみなさまへ!! スキルアップ研修のご希望をお聞かせ下さい。

「こんな研修をやって欲しい」等ご希望をお聞かせ下さい。メールで gogobousai@gmail.com まで。
必ずお名前、ご連絡先、防災士登録ナンバーをご記入の上、ご投稿下さい。

～日本防災士会会員の活動理念～

第1 日本防災士会会員（以下「会員」という）は、地区防災力の向上に努め、防災協働社会の実現に寄与することを活動の基本理念とする。

第2 会員は、地区の防災活動に参画し、災害の事前対策、応急対策等、地区防災活動計画の策定・実施に関し、指導的役割を果たすものとする。

そのために、次の事項に積極的に取り組むものとする。

- 1 会員相互のネットワークを構築し、協力関係を確立すること。
- 2 地区防災活動のリーダーにふさわしい防災知識・技能の研さんに努めること。
- 3 自治体との緊密な連係を図ること。